

# たんけん!!

ひこ ね じょう おもて ご てん  
彦根城表御殿

この建物たてものを知しっていますか？



どんなところか これから たんけんしよう!

え ど じ だ い お も て ご てん や ね し ゅ る い  
江戸時代の表御殿の屋根は、2種類ありました。  
だい じ た て も の いた あ つ か さ こ け ら ぶ き  
大事な建物は、薄い木の板を厚く重ねた屋根(柿葺)に、  
それ以外の建物は瓦かわらの屋根になっていました。  
げん ざ い ひ こ ね じ ょ う ぼ っ け ん じ ゅ ん ぶ ぶ ん ど う ぼ ん  
現在の彦根城博物館の屋根は、柿葺の部分には銅板を  
使っていますが、見た目は昔とそっくりにしています。  
屋根のちがいが、わかるかな？



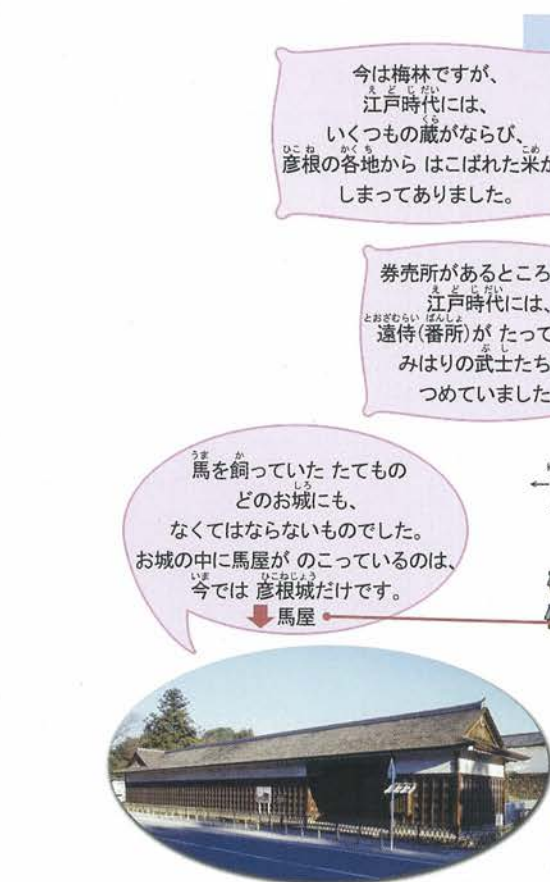
## 彦根城博物館

彦根城 表御殿って、どこにあるの？

◆どこまでが彦根城？◆

みなさんは、彦根山(金亀山)の上に建つ天守だけが彦根城だと思いませんか。下の図の、堀に囲まれている場所は、すべて彦根城です。また、武士や町人が住んでいた城下町も、計画的に作られたので、この城下町をふくめた全体を、彦根城だと考えることもできます。城下町には、江戸時代に建てられた武士や町人の住まいや、お寺・神社の建物が残っています。

彦根城内 (中堀に 囲まれた部分)



今は梅林ですが、江戸時代には、いくつもの蔵がならび、彦根の各地からはこぼれた米が、しまっていました。

券売所があるところには、江戸時代には、遠侍(番所)がたっていて、みはりの武士たちが、つめていました。

馬を飼っていた たてもののお城にも、なくてはならないものでした。お城の中に馬屋がのこっているのは、今では彦根城だけです。



玄宮園からみた天守 江戸時代には、玄宮園と楽々園をあわせて、榎御殿とよばれていて、建物は今の10倍もありました。

マークの説明  
 ◆重要文化財 国の法律で、とくに価値があるとみとめられたもの  
 ●国宝 重要文化財のなかで、とくに高い価値があるとみとめられたもの

彦根城博物館 = 表御殿 ◆

彦根城表御殿は、内堀の表門橋を渡ったところに建っていました。同じ場所に、今は彦根城博物館が建っています。

◆古い建物と、新しく作られた建物◆

彦根城には、天守、太鼓門櫓、西の丸三重櫓、天秤櫓、二の丸佐和口多聞櫓、馬屋、榎御殿など、江戸時代に建てられた建物が残っています。江戸時代の彦根城には、この他にもたくさんの建物がありましたが、明治時代になってから、表御殿をはじめ多くがこわされてしまいました。彦根城博物館と二の丸佐和口多聞櫓に続く建物は、お城の雰囲気をおさなないように、昔の建物に似せて、新しく作られたものです。

# 彦根城 表御殿は どんどころ？

## ◆表御殿ができるまで◆

彦根城は、戦争に備えて、天守のまわりから大急ぎで作りはじめました。石垣や堀・塀をめぐらせて、いくつもの櫓(みはり)をし、武器をしまっておく建物をきずき、敵が入ってくるのを防ぐ工夫をしています。

彦根の殿様は、はじめ、天守のすぐ横にある本丸御殿で暮らしていました。その後、大きな戦いが終わって世の中が落ち着くと、山のふもとに表御殿を建てて移りました。戦いのために作られた山の上の建物は、せまくて、山を登ったりおりたりするのが不便だったので、便利な場所に、政治をおこなうための、広い建物を作ったのです。



▲江戸時代の彦根城の絵図 今の様子とくらべてみよう

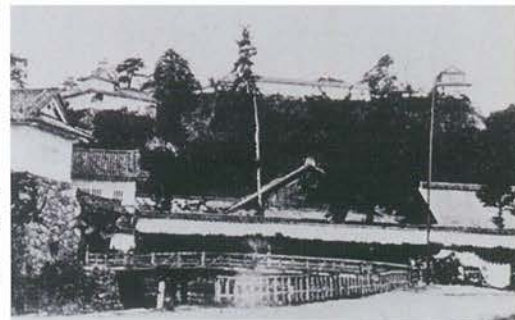
## ◆表御殿の役割は？◆

表御殿は、大小さまざまな建物が集まってできています。そこは、殿様の住まいであり、政治をおこなう場所でもありました。

表御殿では、正月のお祝いにはじまり、1年を通じて、たくさんの行事がおこなわれています。決まった日には、家来たちが、殿様にあいさつをするために集まりました。行事をおこなうことは、とても重要な仕事の1つとなっていました。

また、殿様や家来が、彦根藩の領地を治める相談もおこないました。表御殿は、今の役所のような場所でもあったのです。

表御殿は、建てられてからずっと、城の最も重要な場所として、約250年間使われ続けました。しかし、明治時代になって彦根藩がなくなると、こわされてしまいました。



▲とりこわされる前の表御殿 手前は表門橋



(直興、直中、直弼画像：清凉寺所蔵)

◆博物館ができるまで◆

彦根城博物館は、江戸時代の表御殿にそっくりです。博物館を建てるとき、100年以上前にこわされた表御殿を直接知っている人は、いませんでした。そこで、表御殿があった場所の地面を掘って、土台の石を抜き取ったあとを調べ(発掘調査)、江戸時代の人が描いた表御殿の絵図や明治時代の古い写真を参考にしました。

●発掘調査で分かったこと●

表御殿が建っていた地面を調べると、表御殿に上下水道があったことがわかりました。外堀(今の城東小学校の裏)から、竹や木、石で作った樋を通して水を取り入れ、庭の池の水にしていました。表御殿の周りや床下には溝がはりめぐらされ、雨水や使用後の水は、そこを通過して、内堀に出るようになっていました。

この他に、能舞台の床下に、音をよく響かせるための工夫がされていることもわかりました。



▲発掘調査の様子を空から見たところ

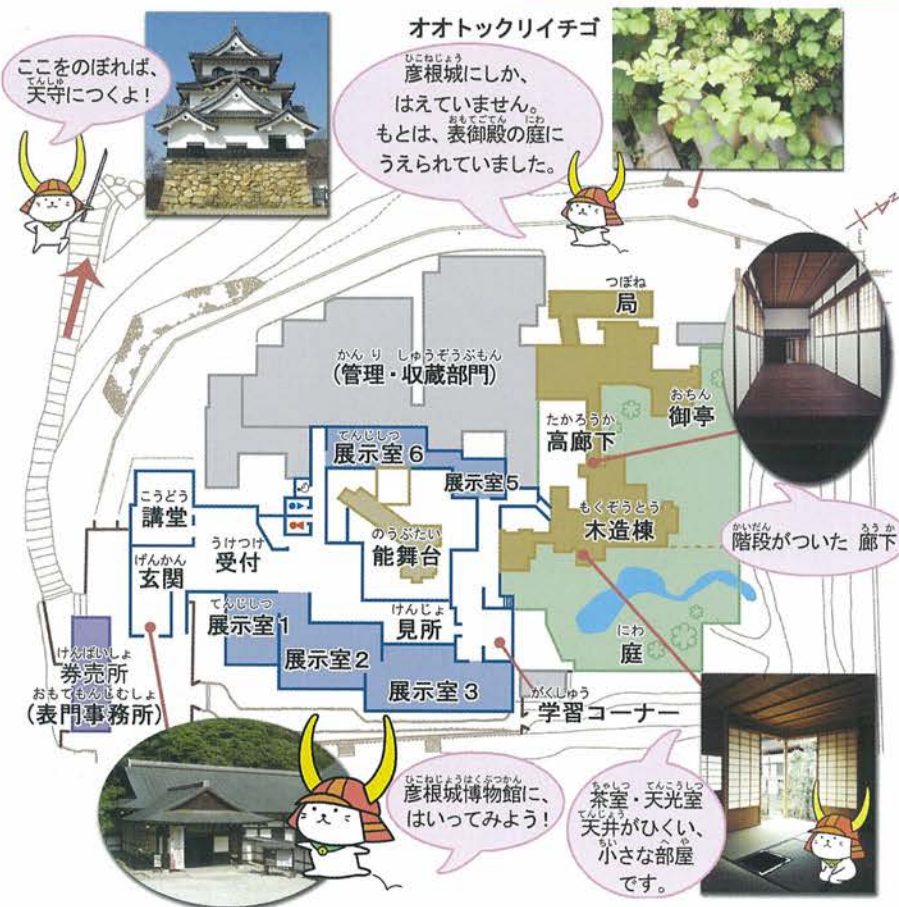


▲江戸時代に作られた、木製の樋 (彦根市教育委員会文化財課保管)

◆彦根城博物館の完成◆

昭和62年(1987年)、表御殿の跡をきちんと保存した上に、彦根城博物館が完成しました。博物館の半分は、外から見ると昔の表御殿の姿をした、鉄筋コンクリートの建物です。もう半分は、昔の表御殿と同じように木材で作られ、外側だけでなく、部屋の形も昔のとおりにしました。そして、博物館の真ん中には、江戸時代の表御殿にあった能舞台が、昔と同じ場所に戻されました。彦根城博物館は、江戸時代の表御殿と同じ位置に、同じ大きさで、そっくり似せて建てられた、全国でもめずらしい博物館です。

つぎのページとくらべてみよう



## 江戸時代へタイムスリップ!!

### ◆表御殿の使いわけ◆

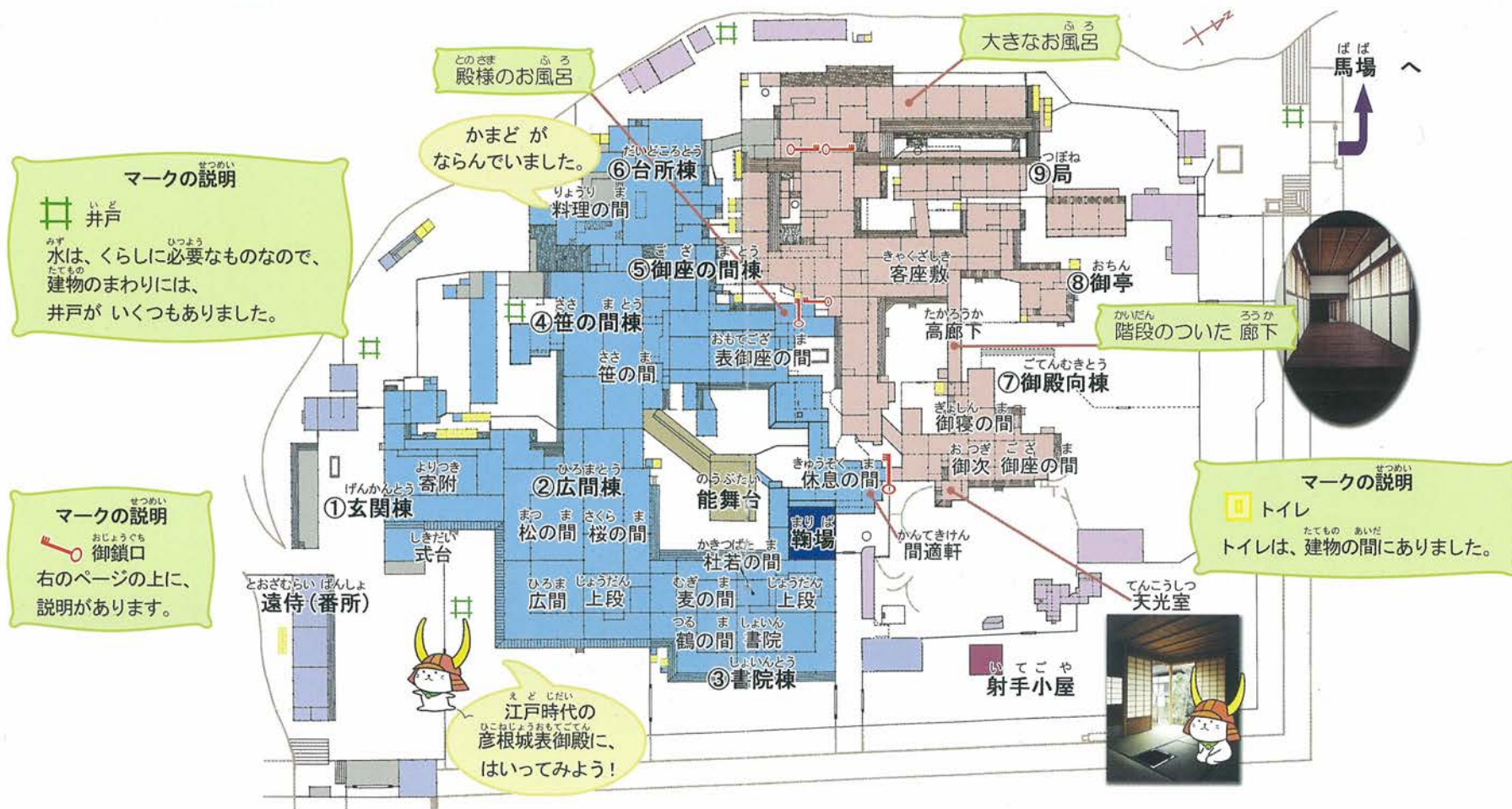
表御殿にはたくさんの部屋がありました。大きく2つに分けられていました。下の図の青色部分は、季節の行事や政治をする場所で、「表」と呼ばれていました。赤色部分は、殿様が自分の家として生活をしていた場所で、「奥」と呼ばれました。

まえのページとくらべてみよう

「表」は、「奥」の2倍の広さがあり、作られた時からあまり変わりませんでしたが、「奥」は、殿様が変わると、その殿様の好みにあわせて、作り変えられることがありました。

### ◆御鎖口◆

「表」から「奥」へ行くには、御鎖口を通らなければなりません。そこには見張りがいて、出入りをする人を厳しくチェックしていました。「奥」で働いていた女の人们は「表」に出られず、「奥」には限られた人しか入ることができませんでした。同じ建物であっても、きっちりと区別されていたのです。



◆① 玄関棟◆

表御殿の玄関は板の間でした。階段を2段上がると畳の廊下があり、そこから御殿の中へと進みます。玄関近くに、「寄附」という待合室や、客を案内する役目の人がひかえている部屋がありました。客をきちんともてなすのも、表御殿での重要な仕事の1つでした。

◆② 広間棟◆

表御殿の中で一番広い「松の間」や「広間」があります。毎月1日と15日や儀式の日には、ここのすべての部屋を使って、畳286枚分の広い場所をつくり、彦根の家来(藩士)全員が集まりました。家来たちは並んで座り、1段高くなっている「上段」の部屋にいる殿様に、そろってあいさつをしました。高い所に立つ殿様と、下でおじぎをしている家来との身分の差が、

●表御殿の中の能舞台●

能舞台は能を演じるための建物です。江戸時代の大名にとって、能はとても重要なものだったので、彦根の殿様も能舞台を建て、能役者をやとい、能面や能装束を集めています。

彦根城博物館にある能舞台は、1800年、11代の殿様・直中の時代に建てられました。表御殿がこわされた時に、他の場所にそのまま移されましたが、博物館を建てる時に、元の場所に戻されました。江戸時代には、お祝いのときに能がおこなわれ、殿様や家来たちが鑑賞しました。



現在の能舞台 能をする時は、ガラスの戸をはずします▲

目で見てはつきり分かるようになっています。

◆③ 書院棟◆

「書院」は、行事のときに最もよく使われた部屋です。殿様が家来から正月のあいさつを受けたり、よそから来た人と会ったりしました。「広間」よりも格の高い部屋で、身分の高い家来しか入れませんでした。

◆④ 笹の間棟◆

「笹の間」は、「家老」(いちばんえらい家来)などの重要な役の人たちが、ひかえていた部屋です。近くには、殿様のそばで働く家来の仕事部屋も並んでいました。

◆⑤ 御座の間棟◆

「御座の間」は殿様の仕事部屋です。殿様が、家来にとっても大切な命令をするときに使われました。

◆⑥ 台所棟◆

殿様や「奥」で暮らす人の食事が作られていました。料理を作る人や、その手伝いをする人たちが、たくさん働いています。

●部屋の名前は、どうしてつけたの?●

表御殿の部屋には、「松の間」をはじめ、桜・杜若・麦・笹・鶴などの名前がついている部屋があります。この部屋の名前は、どこからつけられたのでしょうか。

江戸時代の表御殿は、壁やふすまに絵が描かれていました。部屋の名前は、その部屋に描かれた絵を元につけられたようです。表御殿の絵は、京都の有名な画家や、彦根に住んでいた画家が描いたといわれています。



この部屋のふすまには、秋の草花が描かれています▲

◆⑦ 御殿向棟◆

殿様のお世話をする人がひかえていた、「御次」の部屋をはさんで、殿様がくつろぐための部屋である「御座の間」と、寝室である「御寝の間」がありました。そこから、階段のついた廊下を渡ると、親しいつき合いの客や親戚をもてなすための「客座敷」があります。

◆⑧ 御亭◆

表御殿の中でたった1つの、2階建ての建物です。殿様がのんびり楽しむために作られました。



庭から見た「御亭」▶

◆⑨ 局◆

殿様やその家族の世話をする役目を持った、女の人たちが暮らした部屋です。「表」で働く家来たちは、夕方になると自分の家に帰りましたが、「奥」で働く女の人たちの中には表御殿に住んでいる人もいました。8畳～15畳の広さの部屋が横に並び、数人で1つの部屋を使っています。



▲「局」へつづく渡り廊下



▲部屋がならんでいる「局」▲

◆にわ 庭◆

「奥」の建物は、庭に面して建てています。とくに「御座の間」から、池のある大きな庭が、美しく見えるように作られています。博物館を建てるにあたり、江戸時代に描かれた庭の絵を元に、殿様が眺めていた庭をよみがえらせた。

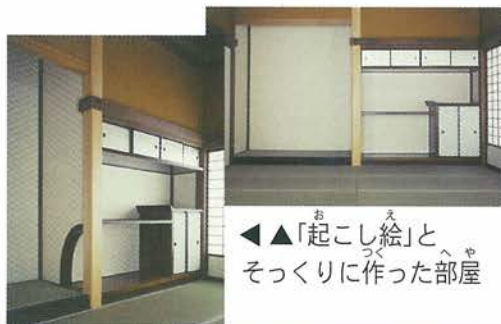
また、建物と建物の間には、「坪庭」と呼ばれる小さな庭が作られていました。狭いスペースですが、花の咲く木が植えられていたり、小さな池が作られていたり、「奥」での殿様の生活に、季節感をそえていました。



▲江戸時代の庭の様子を描いた絵図▲

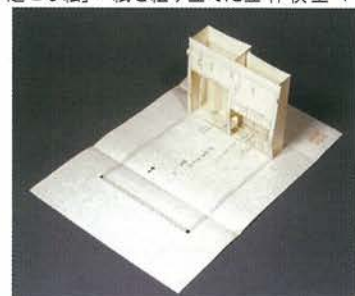
●おこし絵●

「起こし絵」は、立体的な絵図のことです。床の間の形や柱の太さが、細かく書かれています。この「起こし絵」が残されていたので、表御殿とそっくりに建て直すことができました。博物館の木造棟は、「起こし絵」で書かれているとおり、4種類の塗壁を使い分けています。残念なことに、ふすまについては記録されていなかったため、どのような絵が描かれていたのかは、想像するしかありません。



◀▲「起こし絵」とそっくりにした部屋

▲「起こし絵」：紙を組み立てた立体模型▼



## とのおさま 殿様のくらしをのぞいてみよう

### とのおさま 殿様の「たしなみ」◆

とのおさま 殿様のくらしは、仕事をするだけではありません。彦根の殿様として恥ずかしくないように、いろいろな



▲お茶室「天光室」

ことを勉強したり、自分の趣味を楽しんだりしていました。とくに、能や茶の湯は、殿様として知っておかなければならない「たしなみ」でした。

表御殿には、茶の湯のために特別に作られたお茶室もありました。13代の殿様だった井伊直弼は、茶の湯に熱心にとりくみ、「天光室」や「間適軒」で、何



### とのおさま 殿様のスポーツ・弓と乗馬◆

武術は、戦いで敵をたおすための技です。しかし、江戸時代になって平和な世の中が

続くと、武術も殿様の「たしなみ」となり、体をきたえたり、楽しんだりするスポーツとして、行われるようにもなりました。



なかでも、弓と乗馬は、武士にとって重要な技だったので、殿様も学ぶ必要がありました。表御殿の中には、弓を練習する「射手小屋」が作られ、表御殿のそばには、馬を走らせる練習をする「馬場」が作られています。また、彦根城博物館には、殿様が使ったと思われる、馬に乗るための鞍や、弓の道具が残っています。

井伊家の紋(マーク)がついている鞍▼



### ◆殿様の楽しみ・けまり◆

けまりは、数人で1つの鞠(ボール)を地面に落とさないように、足でけてつて次の人につなげるゲームです。古くから貴族の遊びでしたが、江戸時代になると、武士である殿様も楽しむようになりました。

彦根の殿様も、けまりを習い、表御殿の中に「鞠場」(けまりのための専用のコート)を作っています。



### とのおさま 殿様の食事

表御殿の仕事の中に、食事のしたくをする「御膳方」という役目がありました。「御膳方」は、殿様やその家族の料理を作ったり、殿様の旅行の時にもおともをして、食事を作ったりしました。行事がある時は、殿様や家族、家来などの大勢の食事も作りしました。

14代の殿様・井伊直憲の毎日のメニューを見ると、朝食と昼食には、ご飯と汁ものに、漬け物とおかずが1品、夕食は、ご飯に漬け物とおかずが1品と、とても質素です。おかずには季節の野菜の煮物、焼き魚、豆腐などが出されています。しかし、特別な日にはごちそうが出ることもあります。例えば、直憲の結婚式には、鯛や松茸などを使ったおかずが7品と、汁ものが3つも並びました。



直憲が使った、井伊家の紋がついた食器▲

▼直憲の朝食を作ってみました  
メニューは、ご飯・白玉団子の  
みそ汁・豆腐・漬け物です



彦根城の建設年表

西暦	和暦	ことごと
1600年	慶長5年	関ヶ原の合戦で徳川家康が勝利する
1601年	慶長6年	井伊直政が佐和山城主となる
1602年	慶長7年	井伊直政が佐和山で死去する
1603年	慶長8年	井伊家の家老が家康と相談して、新しい城を彦根山に築くことを決める
1604年	慶長9年	工事を開始する
~1607年	~慶長12年	鐘の丸が完成、藩主が佐和山城から鐘の丸へ移る
1615年	元和元年	本丸天守が完成する
		工事を再開する
		表御殿を造営する ←この頃に表御殿ができたよ!
		城下に三重の堀を作る
		城下の町割を整える
1622年	元和8年	この年までに工事がほぼ終了する
1679年	延宝7年	4代直興が槻御殿を作る
1767年	明和4年	二の丸佐和口多間櫓火災、明和6年より再建する
1800年	寛政12年	11代直中が表御殿に能舞台を作る
1878年	明治11年	城内の建物の取り壊しが始まるが、天皇の命令により、天守をはじめ主要な建物を保存することが決まる
1952年	昭和27年	彦根城天守が国宝に指定される
1955~68年	昭和30~43年	天守・西の丸三重櫓・天秤櫓・佐和口多間櫓・馬屋が解体修理される
1987年	昭和62年	表御殿を復元した、彦根城博物館が開館する
1993~96年	平成5~8年	天守、西の丸三重櫓の屋根と壁が修理される



小学生用解説書 たんけん!! 彦根城表御殿

2007年3月発行

編集・発行 彦根城博物館 滋賀県彦根市金亀町1番1号 電話0749(22)6100

印刷 株式会社 ヒコハン

作画 村井田 美穂 (京都精華大学 芸術学部 マンガ学科)

古紙配合率100%の再生紙を使っています